

タンザニアの採集狩猟民であるハツザ族では、男は蜂蜜を集め、女はイモを掘ったり果実を集めたりします。ハツザ族の子どもの体重は、母親が食物の採集に時間を費やす時間に相関していました。母親がアカンボウを産むと、その上の子のために食物を集めに行く時間が減っていることがわかりました。しかしその一方で、孫のために食物を探しに行っていたのです。おばあさんたちが食物の採集に費やす時間は、母親が費やす時間よりも長く、その結果、子どもの体重は、祖母が食物採集に費やす時間と相関関係がみられました。

こうして、おばあさんが孫の面倒をみれば、母親は短い間隔で子どもを産むことができます。つまり、生涯で生む子どもの数を増やすことができます。そして、ヒトは地球上に子孫を増やし、繁栄しているという話になります。

子育てのサポート

残念ながら、今のところ、「おばあさん仮説」を支える有力な証拠は、上記のハツザ族の例しがなく、人類学の研究者の間では依然論議されているそうです。「おばあさん仮説」を実証するには、おばあさんの世話によって孫の数が変わること示さなくてはならず、これはなかなか難しいことのようにです。

しかし、子育てのサポートがとても重要というのは、霊長類で例があります。南米にすむタマリンというサルの仲間では、父親が子育てすることが知られています。タマリンは、体重が一キログラムに満たない小さなサルです。霊長類のほとんどの種では、一回に生む子どもの数は1頭ですが、タマリンは一度に2頭の子どもの産みます。そして、生まれてすぐ父親はアカンボウの運搬を始めます。授乳のときだけ、母親の元にアカンボウを渡し、授乳が終わると、また父親がアカンボウを背負います。父親は、運搬のほか、食物分配

や捕食獣から守るなど、アカンボウの世話をを行います。さらに、群れに所属する他のオスもアカンボウの世話をすることがあり、こうした子育てのサポートがある場合とない場合で比較すると、サポートがある場合には劇的に子どもの生存率があがるそうです。

シニアの子育てサポートとしては、実際の世話だけ

でなく、知識の伝承というのも大切でしょう。霊長類でも、群れで遊動することによって、採食樹の場所などの知識を世代から世代へ継承していると考えられています。ヒトでは、次世代へ受け継ぐものがたくさんあります。「おばあさん」を有効に活用することが、ヒトがヒトたるゆえんかもしれません。

特集 事例①

独立して保育できる「祖父」増加をめざす「ソフリエ」講座

特定非営利活動法人「ソフリエ」代表 古久保 俊嗣

「ソフリエ」を始めた経緯

「多くの若者が子どもを欲しいと願っているのに、なぜ産むことができないのか？」という疑問から、私たちが二世帯（母親層「祖母層」「祖父層」）に調査したところ、3つの特徴が出てきました。

一つは、母親は「育児は家族（祖父母層）に手伝ってもらいたい」と考えていること。二つ目は、祖父が「孫育てに参画してみたい」と思っていること。三つ目は、祖母・母親が「祖父にはとても任せられない」と考えていることです。

確かに祖父層も、これまで子育てに参画してこなかったことは認めていました。しかし、彼らは高度成長や国際競争の時代背景から、子育てや家事を妻に任せざるを得なかった世代なのです。孫育てへの参加意思があるのだから、足りない育児知識や技能を習得できればどうでしょうか。

そこで私たちは、祖父層向けの実用的な育児の講習会である「ソフリエ」講座をつくりました。これを受講し、その認定証が付与されれば、周囲の不信は払拭されて、夢の孫育てへの道が開かれると考えたのです。



ソフリエ企画会議

表1

ソフリエ資格認定「祖父のための孫育て講座」内容

・ソフリエの役割とソフリエルール
・子育ての昔と今
・子供の成長と発達
・栄養（生活サイクル）、ミルク・離乳食・幼児食
・抱っこ、寝かしつけ
・乳歯の手入れ
・排泄、オムツの当て方
・沐浴、身体の手入れ（鼻、耳、目、つめなど）
・あせも、日焼け、虫刺され
・病気（病院に連れて行く判断基準なども）
・予防接種
・事故予防、応急手当
・遊び
・ベビーマッサージ

そもそも乳幼児の健全な発育のためには、数多くの多様な人々から愛情のシャワーを浴びることが必要だと考えています。その意味では、祖父母が、両親とは一味違った愛情を表現することが自然にできると思っています。

私たちは昨年から、全国各地の自治体や福祉施設と共同しながらソフリエ講座を実施しています。これまで福岡県、東京都、神奈川県、三重県などで実施されており、ソフリエ取得者は70名（同様に、「お父さん」を対象にした「パシエ」取得者は40名）を数えます。

今後も、各地の自治体、福祉施設、NPOなどと共同しながら、ソフリエの普及を図ってゆきます。

講習内容

ソフリエ講座は実技をふんだんに取り入れた実務的なもので、最近は一日コース（10時～16時30分）が多くなっています。離乳食と昼食を一緒に作る調理実習まで入っています。

「基本編」ではソフリエの心得など、「日常編」では沐浴やオムツ替えや寝かせつけなどの実技も、「安全編」では衛生や医療や安全に加えて、産褥期の母親の

ケアについても学びます。「ふれあい編」では赤ちゃんとの遊びやコミュニケーション、簡単なベビーマッサージなども学習します。（表1参照）

卒業式にあたる認定式では、認定証が付与されます。北九州市では市長が一般市民の前で修了者一人一人に手渡すという念の入れ方なのです。

卒業生の活動

三重県では、ソフリエ取得者が自主団体「ソフリエみえ」を作りました。彼らはソフリエ講座の舞台になった男女共同参画センター『フレンテみえ』での各種イベントの託児サービスを担う活動をしています。

私はソフリエ認定式で「ソフリエは単なる通過点である」と話しています。自分の孫を育てる「ソフリエ」は「ドクター・オブ・イクメン（博士課程）」であり、その上位に「キング・オブ・イクメン（王者）」となる「イクジイ」が存在します。「イクジイ」は自分の孫だけでなく地域の幼児・子供の育児に積極的に参加する「スーパーじいさん」だと言っているのです。この「ソフリエみえ」の活動は正に「イクジイ」の体现するものです。

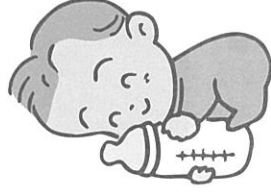
感想、展望

ソフリエ講座に参加される祖父層は開放的で明るくて積極的な方々です。祖父層は日本や世界の将来を見据えながら、次世代を担う子供たちの育成に関わりたいという気持ちを持っています。サラリーマンとして部下の育成に腐心した長い経験もあります。祖父層は真に頼りになる人的資産なのです。しかし、仕事中心

の生活を続けてきたために、祖母層に比べて地域や社会との関わりが薄く、地域参画のハードルを越えられない人も少なくありません。

地域と社会につながる第一歩は家庭に参画することだと思います。祖母層との共同や子どもたち世代への応援などをきっかけにして、祖父層の活躍の範囲が次々と広がってゆくはずです。

このような好循環を目指して、その一助となれればと願いながら私たちは各種の活動を続けています。



赤ちゃんの着替講習



NPO 法人エガリテ大手前
URL: <http://egaliteo.com/>
Eメール: furukubo1978@mercury.ne.jp